

GLP GEFIL



東京大学グローバルリーダー育成プログラム2023

UTokyo

Global

Education

for

Innovation

&

Leadership

国際社会のリーダーをつくる
東大特別教育プログラム。

GLP-GEfIL 東京大学グローバルリーダー育成プログラムとは？

Global Leadership Program(GLP)は、国際社会における指導的人材を育成することを目的として2014年度からスタートした、学部学生を対象とした特別教育プログラムです。Global Education for Innovation & Leadership(GEfIL)は、GLPの後半2年間のプログラムで、国際関連に強い興味を持ち、将来革新的なリーダーを務めていきたいと考えている学生、高い英語能力と意欲を備えた学生を対象としています。

GLP-GEfILの4つの強み

- ① 東京大学の研究者たちの持つ世界的なネットワークを最大限活用できます。
- ② 海外トップクラスの大学の研究者・学生との共同研究や、国際的な企業家や専門家との交流があります。
- ③ 賛同企業の支援により、海外プログラムの授業料等への奨学金があります。
- ④ 東京大学公式のGLP-GEfIL修了証が交付されます。

どんな能力が身につきますか？

GLP-GEfILを通じ、コミュニケーションツールとして、またはアカデミック・スキルとしての実践的な英語力を磨きます。グローバルリーダー講義や学際的なワークショップに携わり、国際的な課題への問題意識及び理解を深めます。さらに実践研究を通じて、実用的なチームワークスキルやプロジェクト・マネジメント能力を身につけていきます。

どのような将来の進路が想定されますか？

GLP-GEfILの修了生は、自身の専門のみならず、グローバルコンピテンシーや柔軟なリーダーシップスキルを身につけているので、卒業後のキャリアは、国際機関やグローバルに展開する企業での活躍が期待されます。また、東京大学や海外の大学院等で、研究を一層深めることもできるでしょう。



【写真：GLP-GEfIL第8期履修生認定式・オリエンテーションの様子】



東京大学における若いリーダーの育成が未来を形づくる

現代はパンデミックや戦争、気候変動など、私たち人類社会の目前に次々と地球規模課題が突き付けられ、これまで前提としていた諸条件や常識が大きく変化する中で、社会の中で大学が果たすべき役割の重要性が高まっています。東京大学で学ぶ皆さんには、国内外の様々な分野における課題に対して、創造的役割を果たすリーダーへと成長して欲しいと考えています。グローバルな課題に立ち向かうリーダーは、高度な専門知識や優れたリーダーシップに加えて、異なる価値観を持つ他者と協力しながら誰一人取り残さない世界を実現するための多様性・包摂性への理解が必要です。また、自らの学びを実際の社会課題解決に活かす実践力や、変容する知の在り方に対応しながら不断に学び続ける意識を涵養しなければなりません。そのような能力をもった若者たちを育成するため、東京大学は産業界のご理解と多大なるご支援を得てこのプログラムを運営しています。重要な責任のある役割を担い、グローバルに活躍しようとする志をもって、多くの学生がこの挑戦に参加することを期待します。

東京大学総長 藤井 輝夫



自分自身のリーダーシップ像を見つけよう

室長 福士 謙介 未来ビジョン研究センター教授

GLP-GEFILはリーダーを育成するプログラムです。リーダーには様々なタイプがあると思います。強烈なカリスマ性を持ちグループを牽引するタイプ、全ての人をサポートして皆から尊敬されるタイプ等です。このプログラムでは異なる学術の専門性、文化的背景、性別、国籍等の多様な仲間とともに活動し、多様なリーダーシップについて考えることを体験していただきたいと思います。そして、プログラム修了後はそのような体験をした人々がグローバルなネットワークを構築し、地球のサステナビリティのために大きく貢献して欲しいと思っています。

GEFIL実践研究 PHASE1 (2年次12月~3年次5月)

実践研究PHASE1では、学生たちが現実の世界で起こっている問題を題材に、研究を進めていくプロセスを学びます。集中的に開催されるワークショップを通じて、学生たちは研究計画の立案や実行、そして学際的なアプローチで研究を進めていく方法などを身につけていきます。さらに、その結果を内外の専門家たちにどのように伝えていくかも重要な課題としています。これらの全てのプロセスを英語で学び、中間・最終のプレゼンテーションも英語で行います。

実践研究PHASE1履修生の声

実践研究PHASE1は、多様なバックグラウンドを持つメンバーがそれぞれの強みを活かして主体的に課題に取り組むチームプロジェクトです。それぞれのチームがSDGsに関連した課題を選び、その解決へのアプローチを考案します。私たちのチームでは、東京都の性教育の課題のプロジェクトを進めています。学校教育環境の違い、例えば国内・海外、男女別学・共学、私立・公立などについて、それぞれの過去の学校での経験を振り返ることで幅広いアイデアが生まれました。また、今年はコロナ禍後初めて対面で活動を行えたので、ディスカッションが進めやすく、初めて出会うメンバーともスムーズに打ち解けられました。プロジェクトの方向性で課題が生じた際は、GLPメンター教員やTAの有益なフィードバックやミーティングでのアドバイスをもちに、チーム皆で改善方法を考えています。



写真左から 松本哲 (経済学部 3年生)、齋藤優佳 (法学部 3年生)、グアン イーフェイ (教養学部 PEAK2 年生)、長谷川雄飛 (工学部 3年生)、永井利旺 (法学部 3年生)、齋藤優季 (医学部 3年生)

GEFIL共通講義

GEFIL共通講義は、GEFIL実践研究PHASE1の履修生を対象としたGLP-GEFILプログラムの必修講義です。この講義は全7~8回、オムニバス形式で、実践研究PHASE2の主幹メンターや協力教員によるインタラクティブな講義、ディスカッションと、グローバル企業、国際機関、研究機関等からのインプット等で構成されます。実践研究PHASE2のテーマは、各々に関連性があり、国連の2030年までの課題である持続可能な開発目標とも大いに関連しています。この講義の中で、履修生は、主幹メンターや協力教員の研究分野における各々の研究手法や実践的な展開を学びます。将来は履修生各自が世界的に通用する研究テーマを考案し、公共政策や企業戦略、技術革新等の領域へと展開させて、世の中に良い影響をもたらすことを目指しています。この講義を通じてのもう一つの目的は、GEFIL履修生がGLP-GEFILの履修の初期段階において、実践研究PHASE2の主幹メンターとその研究分野を知ることです。その結果、履修生は自分にとってより適切な実践研究PHASE2のテーマの選択ができると思っています。

履修生の声



中村 咲喜花
経済学部3年生

GEFIL共通講義は各主幹メンター教員による講義と、その内容を踏まえた少人数のグループワーク及び発表で構成されています。講義では、平和構築や大都市東京の未来等の諸トピックスから、ポジティブデビアンسという方法論に至る多様な切り口等を通じて、今後の活動への興味深い視点を得ています。

グループワークは初対面のメンバーたちと一緒に、約30分という制限時間の中で行われます。英語での議論等の様々な壁に対応することを通じて、スムーズかつ深みのある議論を進める力を身に付けることができます。時間内に話し合いを発表まで昇華させるのは難しいですが、上手く意見がまとまると達成感があり、毎回新しい工夫に挑戦することが楽しみです。

GEFIL共通講義のわずか数時間のうちに、私は「グローバルリーダー」となるための様々なヒントを発見できました。皆さんも回を重ねるごとに成長する自分と出会ってみませんか。



GLP-GEFIL授業の様子



GLP-GEFIL プログラム全体の流れ

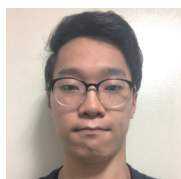
履修生としての認定



グローバルリーダー講義

グローバルリーダー講義は、GEFIL実践研究PHASE2の履修生を対象としたGLP-GEFILプログラムの必修講義です。講義は、数日間の集中講義のワークショップ形式で行われます。実践研究や海外プログラムを通じて学んだ知識、スキル、洞察力を活かして、履修生それぞれが創造的リーダーシップについて理解を深めることを目的としています。

履修生の声



カンヤグ テングィスボルド
工学部4年生
(参加当時)

昨年度のグローバルリーダー講義は、「レジリエンス」がテーマでした。具体的には、我々が不幸や困難などにあった時、そこから立ち直る力、すなわち「回復力」に注目し、どうすればもっとレジリエントな社会を構築できるかについて考えました。講義の初日に、お二人の基調講演がありました。ブータンの国民総幸福量センターのプログラムディレクターのジュリア・キム先生は、国民の幸福の本質、そしてそこにおけるレジリエンスの意味について講義をされました。三菱ケミカルホールディングスグループの代表執行役社長のジョンマーク・ギルソン氏は、企業における貴重な経験を基に、幸福かつレジリエントな企業を構築、運営する方法について講義されました。また、学生たち自らが、レジリエンス追求が必要な問題を提案し、チームメンバーを集め、改善方法を一緒に探るワークショップも貴重な体験でした。私たちのチームは「ワクチン不平等」の問題に着目し、新型コロナワクチンを地球規模でもっと平等かつ効率よく配布するためにできることを考え、議論しました。グローバルリーダー講義の三日間で、将来のリーダーとして目指すべき社会の在り方を考え、必然的な困難に備えて立ち向かう力を身に着けることができたと思います。

GEFIL実践研究 PHASE2 (3年次9月～4年次5月)

学生が興味・関心を持つグローバルな課題の中からテーマを選び、各々のクラスに分かれて本格的な実践研究を行います。GEFIL実践研究PHASE2では、主幹メンター教員によるゼミや、協力教員・TAの助言・指導等を通じて、研究を深化させていきます。海外プログラムの経験やGEFIL共通講義で得た知見を自身の研究活動にもフィードバックして、最終的な研究成果を取りまとめ、英語で発表します。

2023-2024年度開講の実践研究のテーマ群と担当主幹メンター教員は次の通りです。



グローバル・ヘルス
医学系研究科教授
東 尚弘



グローバル・エデュケーション
教育学研究科教授
勝野 正章



ピース・ビルディング
総合文化研究科教授
キハラハント 愛



サステナビリティ
未来ビジョン研究センター教授
福士 謙介



AIと社会
情報学環教授
板津 木綿子

※GEFIL 実践研究 PHASE2のテーマ群は今後順次更新していく見込みです。

2022-2023年度開講実践研究PHASE2履修生の声

グローバル・ヘルス



植村 航太
文学部4年生

グローバルヘルスでは、公正な医療実現に向けた課題把握と問題解決について学びます。講義では、さまざまな場面で活躍されている研究者や医師の方々から、具体的な状況における課題について直接聞くことができます。学んでみたい!という意欲さえあれば、このコースに参加するのに十分だと思います。

私たちのグループは、社会正義に関して類似する概念、equalityとequityの違いについて学ぶところから始めました。前者

(equality) はわかりやすいし、広く流布している考え方だと思います。実際、方法的に「平等」を実現しようとしても、それが必ずしも「正義」にかなうわけではないというのは実感できると思います。これはグローバルヘルスを考える際に重要になってくる考え方です。

誰でも参加でき、また面白い分野領域だと思います。関心のある方はぜひ!

グローバル・エデュケーション



濱口 泰征
工学部4年生

グローバル・エデュケーションでは子供の権利の保障をテーマに、教育を通じてグローバルな視点で問題解決に取り組みます。自分の興味関心に従って自由に研究を進めることができ、子供の労働問題、教育分野への国際援助、養子に出された子供が抱える悩みなど、テーマは多岐に渡ります。

授業では各自調べてきたことを発表し、議論を通じて主幹メンター教員やTAからの確かなアドバイスを受けることができます。

また韓国へ3日間フィールドワークに行き、著名な研究者の方々から子供の権利に関するお話を聞きました。日本から一歩踏み出して教育を考えることで、グローバルな視点で多様な知見を得ることができました。

子供の権利や教育に少しでも興味のある方は、このグローバル・エデュケーションを選んでみてはいかがでしょうか。

ピース・ビルディング



飯森 栄治
工学部4年生

ピース・ビルディングでは、武力紛争の原因考察とともに、持続可能な平和を構築するためにはどういった取り組みが必要かを勉強します。講義では、平和構築論の枠組みを学習し、国際法の観点から、前世紀に戦争や地域紛争の残酷さを経験した、比較的新しい国である東ティモールの平和構築の現状を平和構築論で解析します。

また、主幹メンター教員の講義に加え、元真相究明委員会顧問

による移行期正義 (Transitional Justice) のゲストレクチャーを受け、当事者から東ティモールの平和構築の経過を詳しく知る貴重な体験を得ることができました。PHASE2を通して、世界の武力紛争や不安定な状況、人権と持続可能な平和、正義、説明責任、持続可能な平和についてより深く理解することができたと思います。

サステナビリティ



廣瀬 太雅
教養学部4年生

サステナビリティでは、島における持続可能性をテーマに活動します。主幹メンター教員や協力教員の指導の下、学生主導で研究計画を立て、インドネシアのバリ島でのフィールドワークを行います。その上で、得られた知見を最終発表としてまとめます。メンバー同士は率直に意見を共有しあう関係で、プログラム内で困ったことがあれば、快く手を貸してくれます。多様な学部・国籍の学生たちが一堂に会し、そしてフィールドワークで外の世界

を見られる、これが GLP-GEFIL の良い所なのだと思います。気候変動への取り組みが喫緊の課題である今、私たちは未来の世代に「バトン」を渡せるよう行動を起こす事が求められています。このクラスは、同じ問題意識を持つ同世代と英語で議論することで、今後必要とされる、課題解決に向けて踏み出し、議論し、解決策を検討する力を与えてくれると思います。

グローバル・シティ



高橋 渚紗
教育学部4年生

都市は政治や経済、文化の中心であり、人口集中が進む中でその役割は増大しています。このコースでは、世界有数の大都市である東京に着目し、その歴史的、地理的背景に基づいて東京の国際化を捉え直します。今年度は再開発に伴うジェントリフィケーションと、国籍やジェンダーなどを超えた異文化接触をテーマにそれぞれグループに分かれて研究を行っています。理論だけでなく、

フィールドワーク等の実践を踏まえて多角的に都市について探求できるのがコースの特徴です。さらに、様々な専攻の仲間との講義は、いつも新しい視点が得られて非常に興味深いです。気候変動など社会課題が国際化する中、グローバルに考え、ローカルに行動することが求められています。グローバル・シティはそんな「グローバル」な人材へと一歩近づけるコースだと思います。

GEFIL海外プログラム

世界のトップレベルの大学のサマープログラム等を多数厳選し、GEFIL履修期間中に2度経験する機会を設けています。派遣にあたっては、同一のプログラムに参加できるGEFIL履修生の人数に制限を設けて、世界各国のメンバーと交流する経験を薦めています。また一定のGLP-GEFILプログラムの条件を満たすことで、履修生自身が企画したフィールドワーク、インターンシップやボランティア活動を行うことも可能です。海外派遣にあたっては、協賛企業の寄付による奨学金（地域・期間等に応じて最高100万円まで）を支給します。

2023年海外プログラム派遣予定先例

シンガポール	Nanyang Technological University
台湾	National Chengchi University
アメリカ	Stanford Summer International Honors Program (SSIHP)
	Harvard Summer School
カナダ	Vancouver Summer School, University of British Columbia
イギリス	Pembroke Cambridge Summer Programme
	LSE Summer School
	Oxford University, International Politics Summer School
	University College London
スイス	Geneva Summer Schools
ドイツ	Ludwig Maximilian University of Munich
	TU Berlin
	RWTH Aachen University, Engineering Summer School
フランス	HEC Paris Summer School
	Sciences Po Summer School
オランダ	Utrecht Summer School
デンマーク	University of Copenhagen



海外プログラム履修生の声



賀 麗竹
教養学部 PEAK
3年生

私はオックスフォード大学セントアントニーズカレッジにて2週間の素晴らしい留学経験を送りました。大学では「Critical Approaches to African Politics」のコースに参加しました。このコースは私の期待を間違いなく上回る、素晴らしいものでした。ここでは、解放運動、農地改革、民主化など、アフリカの現代史や政治をより深く学びました。セミナーや講義の合間にあるコーヒーブレイクの短い時間の間に、世界各国から集まってきた学生たちと自由にコミュニケーションすることもできました。東京大学とGLP-GEFILプログラム、そして何よりもお力添えをいただいている寄付企業の皆さまのおかげで、この短期留学に参加でき、オックスフォードで思い出深い夏を送ることができましたことを心より感謝申し上げます。



高崎 千実
教養学部 4年生

私は1ヶ月間ドイツに滞在し、フンボルト大学で「Social Market Economy - A Better Capitalism?」のコースを受講しました。授業ではドイツの政治経済や福祉国家の発展についてのレクチャーを受けたのちに、文献講読を踏まえてプレゼンテーションや議論を行いました。ドイツの政治経済の知識をベースに福祉政策の枠組みやその歴史について包括的に理解することができ、大変有意義な授業でした。また、フンボルト大学はサマースクールの参加者に向けてさまざまな体験イベントを用意してくれました。ベルリンの国会議事堂見学や、オーケストラの鑑賞、冷戦下のベルリンの歴史にふれるツアーになど、一人で旅行に行くだけではできない世界を見ることができました。他にも、滞在中に行われた大規模なプライドパレード、サマースクールでできた友人と行った旅行など、たくさんの思い出ができました。世界各国から来た学生と一緒にこれらの時間を共有でき、唯一無二の経験になりました。



Structure of GLP-GEFIL 修了までの流れ

GLP-GEFILでは、学部前期課程(1・2年次)でのGLP指定科目の履修等を基礎としつつ、語学力や意欲によって選抜された学生(100人程度)を対象として、学部後期課程(3年次以降)を中心に、分野横断型の特別教育プログラムを提供します。

学部前期課程
(1・2年次)

GLP 指定科目の履修

グローバル
教養

実践力
・
課題解決能力

実践的
外国語能力

上記の3区分から2区分以上にわたり、6単位以上取得

※GLP指定科目は、前期課程で提供される授業科目の一部を充てたものであり、GEFILの履修希望の有無に関わらず、履修することができます。

GEFILの履修申請

2年次(PEAK生は1年次)の8月頃

ハイレベルな英語による
コミュニケーション能力
IELTS7.0以上または
TOEFL iBT 100以上を目安

約**100**人
を選抜

強いモチベーション
国際社会における将来の
リーダーとしてのビジョンと推進力

学部後期課程
(3・4年次)

GLP-GEFIL 学部2年次冬～4年次秋

主体的に取り組む実践研究や海外プログラムへの参加などを通じて、英語によるコミュニケーション能力、専門分野を越えて協働する力、地球規模の課題に革新的な解決を提案できる発想力を身に付けます。授業はすべて英語で行われます。

プログラムを構成する4つの柱

① GEFIL実践研究【4単位】

学生自身が関心を持つ地球規模の問題を対象に、創造的・学術的な研究プロジェクトを設計・実施していくことを目標とします。

② GEFIL海外プログラム【4単位相当】

3年次および4年次に、世界トップレベルの大学の厳選されたプログラムやインターンシップ、海外でのボランティア活動に参加します。

③ グローバルリーダー講義【2単位】

創造的リーダーシップ醸成を目的としたワークショップ形式の数日間の集中講義です。実践研究 PHASE2 履修生対象です。

④ GEFIL共通講義【2単位相当】

全7～8回、主幹メンター教員によるインタラクティブな講義とディスカッションで構成されるオムニバス形式の講義です。実践研究 PHASE1 履修生対象です。

*「GEFIL 実践研究」と「グローバルリーダー講義」での取得単位を卒業単位に含めるかは各部局の判断によります。

GEFIL ALUMNI GROUP

2017年10月に初代の GEFIL 修了生が誕生しました。修了生は修了生の会、GEFIL ALUMNI GROUP をスタートしています。
(GEFIL ALUMNI GROUP 会長挨拶より抜粋)

私は、学部時代の2年間を通して各学部から集まる多様な履修生と出会い、海外大学のサマープログラムでは現地で奮闘し、全ての課程を修了するにあたって、履修前には見えなかった世界・持ち得なかった知見が自身に身についたことに気づかされました。他の多くの修了生たちにとっても、GEFILでの経験が、それぞれの道で、それぞれの意味を発揮していることと思います。

GEFILはもはや生まれたてのプログラムではありません。多くの修了生を擁し、今後も多くの修了生を輩出していくであろう、東大の国際教育プログラムとしては、規模が大きく、その存在感を誇ることのできるコミュニティを有するプログラムとなっています。GEFIL ALUMNI GROUPは、修了生と現役の履修生、協賛企業の皆様と大学組織とを橋渡しする役割を期待されており、我々役員も、多くを話し合い、模索しながら活動しています。



【写真：GLP-GEFIL第6回修了式にて・修了生とGEFIL ALUMNI GROUPの皆さんで】

東大GEFIL 基金

GEFIL 海外プログラムの奨学金は、GLP-GEFIL プログラムにご賛同いただいた企業のみなさまからの寄付（「東京大学グローバルリーダー育成基金」）により実現しています。「東大 GEFIL 基金」は、GLP-GEFIL プログラムで学んだ修了生、本教育プログラムにご賛同いただける東大卒業生や一般の方々から、より幅広いご支援を募り、全額を GLP-GEFIL の海外プログラム奨学金として用いて参ります。



現在 GLP-GEFIL プログラムを学んでいる履修生たち、これから学ぶ学生たちへのご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。
(東大 GEFIL 基金ウェブページ) <http://utf.u-tokyo.ac.jp/project/pjt86.html>

グローバルリーダー育成プログラムは、趣旨にご賛同いただいた下記の企業様のご支援・ご協力によって支えられています。



住友商事

Enriching lives and the world

住友商事は東京大学 GLP リーディング・パートナーです。

IHI

AsahiKASEI

astellas
Leading Light for Life

Eisai エーザイ株式会社

おいしさと健康
Glico

ABB

Otsuka

JFE

シオノギ製薬

Johnson & Johnson

あなたの未来を強くする

住友生命

一信用と創造
住友不動産

SONY

SORAMITSU

Takeda



(公財)Tazaki財団は
東京大学GLPの英国留学生に
委託型奨学金を給付します

JR
JR東海

東京海上日動

TORAY

JT

日本調剤

NOMURA

JR
JR東日本

富士電機
Innovating Energy Technology

SMBC SUMITOMO MITSUI
BANKING CORPORATION

三井不動産

三菱ケミカル
ホールディングス

三菱重工業株式会社

三菱電機株式会社

LIXIL

(2023年3月現在 社名五十音順)

GLP-GEFIL に関する詳細情報は

<http://www.glp.u-tokyo.ac.jp>

GLP 指定科目の履修手続きについて：教養学部教務課前期課程チームにお問い合わせください。

GLP-GEFIL の内容等について：東京大学グローバルリーダー育成プログラム推進室にお問い合わせください。

e-mail: glp-gefil.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

〒113-8654 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学グローバルリーダー育成プログラム推進室

